

# 自然の家だより

岐阜市少年自然の家（岐阜市教育文化振興事業団） 〒501-2502 岐阜市山県北野 2,081番地  
Tel 058-229-2888 Fax 058-229-2933 Email: gishizen@he.mirai.ne.jp URL: http://www.mirai.ne.jp/~gishizen/

今年の元旦は近年にない好天で、多くの場所で“素晴らしい初日の出”を迎えることができたといえましょう。例年、ロープウェイも稼働する金華山は、さすが景勝地だけあって「人で人でいっぱい」との話も聞きますが、岐阜市の最高地点、海拔417.9mの「百々ヶ峰」では、今年は昨年のような雪もなく、「ひむがしの野にかぎろいの立つみえて…」という“荘厳な雰囲気”の中で、それでも30名ほどの人たちが集まって「初日の出」を迎えていました。

## 岐阜市の最高峰は？

ところで上に『岐阜市の最高地点、海拔417.9mの「百々ヶ峰」』などと書きましたが、じつは国土地理院の「地形図」では、二万五千分の一の『岐阜北部』でも五万分の一の『岐阜』でも下のよう**に417.9mの最高峰に名前がなく、** どういうわけか、その1km西に位置する海拔341.5m



の三角点に「百々ヶ峰」の名がついているのです。この無名にされてる標高417.9mの山は、まさに山塊の主峰で、北の高富や三輪、関市方面からも見える山なのに名前が書かれていないのはおかしなことです。そうした“おかしさ”は、下の写真でよりはっきりしましょう。

写真は、長良橋の南詰めから北をながめたものです。地形図で「百々ヶ峰」とされた標高341.5mの山は、頂上にマイクロ波の反射板のある山（長良では昔から「真福寺山」と呼んでいた）の陰になって見えません。この341.5mの山は、反射板のある山より10mほど高いので、市役所あたりまで離れると反射板の山の右肩にかすかに見えるようにはなりますが、北からは最高峰の陰になって見えないし、南からだって反射板のある山にさえぎられて十分には見えず、どうひいき目に見ても「あえて名前を付けねばならぬほどの重要性の高い山」には思えません。いつからこうした“おかしな状況”になっているのかと、国土地理院の前身の「陸地測量部」の時代の『旧版地形図』を調べたら、何と「百々ヶ峰」の名が書き込まれた一番**最初から341m峰が「百々ヶ峰」になっていて、417.9mの最高峰は無名になっていたのです。**



地形図を長良橋からの景色に重ねると

しかし長良川のほとりに生まれ育った「自然の家」の酒井、子どもの頃から「あれが岐阜市の最高峰の“百々ヶ峰”」と言われてきたこともあり、こうした「地形図の表記」に疑問を持ち、昔から山塊の周囲に住んでいる人たちに3年前に「どれが百々ヶ峰？」と聞いた結果が次表です。